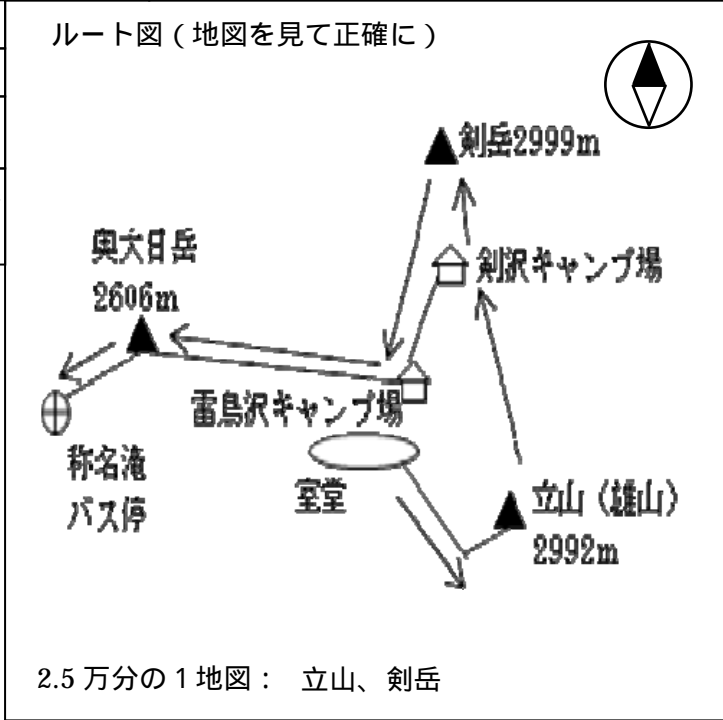


9 月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small>		報告者	津田 廣一	参加 メンバー	CL:津田 廣一 津田 竜広
		報告日	10/12		
山 域	北アルプス	山行日	11 年 09 月 23 日(金)		
山 名	立山				

山行目的	山旅を楽しむ 山懐に入る	コースタイム(天候:天気図記号)
------	--------------	------------------

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集
会担当者



9/23 曇り時々晴れ後雪	
04:30 起床	
05:00 息子のアパート(富山)発	
06:15 立山 P 着 室堂方面を望む	
07:20 ケーブルカー	
08:25 室堂着 大汝山にて	
08:30 室堂発	
09:15 一ノ越 1 本(10 分)	
10:05 ~ 40 立山雄山 山頂 (参拝 10:15 ~ 25)	
11:00 大汝山	
11:20 富士ノ折立	
11:50 真砂岳(巻く) 別山	
12:35 別山 1 本(10 分)	
13:30 剣沢(テン場)着	
突然雪	
剣を背に	

山行報告 [9月22日]大学生の息子の試験終了時間(15時)に合わせ、ゆっくりと自宅を11時に出発。高速に入って、雨の為に五箇山・福光 IC 間が通行止めになっているのを知ったが後の祭り。こちらは、曇っているが雨は降っていない。通行止め解除の淡い期待を抱きつつ車を走らせるも万事休す。五箇山~砺波 IC 間を下道を走り、1h遅れで到着。早速、食料の買い出しに二人で出掛ける。息子は、夕方からサークルの勉強会とやらに出かけ、明日の準備をしつつ、息子の帰りを待って就寝。残念ながら、今日は、眠り薬はお預けだ。

[9月23日]4時30分に起床。顔を洗い、ザックを車へ積みこんで、立山の駐車場に向かう。世間は3連休で、駐車場がいっぱいでは?と危惧していたが、案の上、奥の臨時駐車場へ案内される。登山準備を急いで、ケーブルカー乗り場へ急ぐも、7:20 発となり、1時間弱待つ事に。朝食のお握りをゆっくりと味わいながら時間を潰す。室堂へ向かうバスでウトウトし、目を開けるとガスの中で何も見えない。下は晴れていた様だが、山の方の天気は今一つの様だ。今日は、息子の体力の見極め目的だから、視界が悪くてもいいかと、思いはするが、眺望の利かないのは残念だ。室堂に着き、早々に出発。色々な人種の混雑した道を急ぐ。ゆっくりと登っているつもりだが、どんどん追い抜いている。一汗かいた頃に一ノ越へ到着。これからが本当の登山道だ。息子は?と見ていると、私に着いてくると言うより、急登に息を切らしている私を尻目に、息も切らさずに登り続けている。小6の時に、一緒に八ヶ岳(赤岳)へ登って以来だが、体力的に

は私を完全に超えている。2ピッチで雄山の頂上へ。大汝山、富士ノ折立、真砂、別山と縦走し、13時半に剣沢到着。霰か、雹かと思っている内に雪へ変わり、大急ぎでテントを設営し、中に潜りこむ。寒くて、とてもビールを飲む気持ちにならない。レトルトの夕食を食し、明日の確認(今日の雪で、岩場の凍結の心配から、5時出発は止め、7時出発で行ける所まで行くが、無理をしない。)をしては、シュラフに潜り込んで、早々に就寝。眠り薬は、今日もお預けと

リーダー所見 成人した息子との初の本格的登山であり、立山で様子を見て...と思ったが、全く心配は不要であった。息子の感想を聞くと、天候にも恵まれ、山そのものは、非常に良かったが、最後の下り以外は、体力的には物足りなく、もっとハードでもよかったとの事。私の方は、私のペースで気持ちよく歩け、一昨年の剣断念のリベンジも果たす事ができた。息子も忙しそうだが、時間ができたら、又、一緒に山へ行きたいものだ。

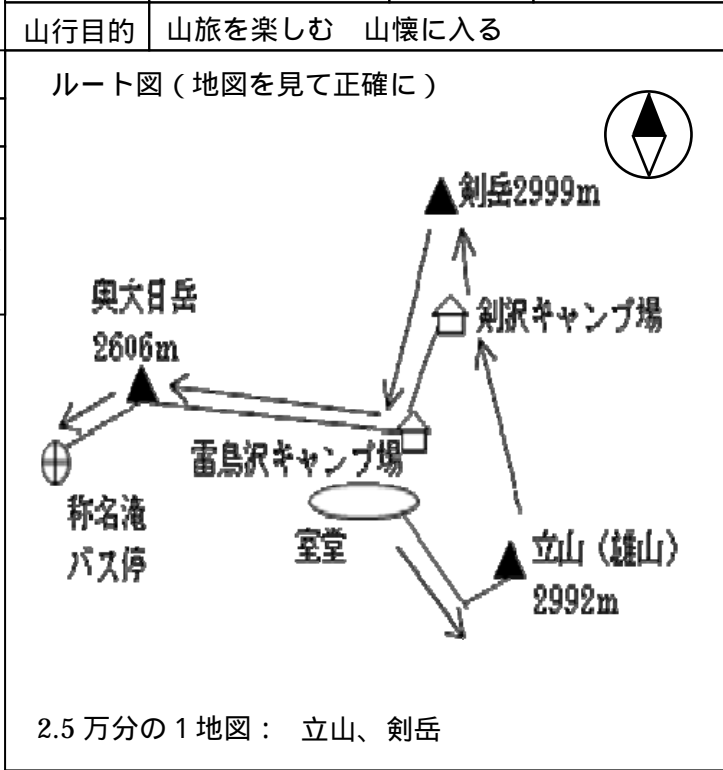


立山 雄山頂上にて

確認
(リーダー)
津田
11.10.05
作成
(報告者)
津田
11.10.05

9 月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small>		報告者	津田 廣一	参加 メンバー	CL:津田 廣一 津田 竜広
		報告日	10/12		
山域	北アルプス	山行日	11年 09月 24日(土)		
山名	剣岳				
山行目的	山旅を楽しむ 山懐に入る		コースタイム(天候:天気図記号)		

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者



9/24 快晴	 タテバエを攀じる
05:00 起床	
06:55 剣沢(テン場) 発	
07:20 剣山荘着(荷物デポ)	
07:45 剣山荘 発	
08:15 一服剣前の鞍部 1本(10分)	
09:00 前剣	
11:25~50 剣岳 山頂	
12:55 前剣 1本(10分)	
13:40 剣山荘 1本(10分)	
15:10 剣御前小屋 1本(10分)	
16:00 雷鳥沢(テン場) 着	
 目指す剣岳	

山行報告 昨日の思いに外の降雪で、朝一番の剣沢からの空身のアタックを止めた為、5時起床となった。寒さから眼を覚まして、外を見ると満点の星空だ。5時を待って、コンロに火を点け、暖かいみそ汁とパサパサのにぎり飯の朝食。テントを撤収、キジ撃ち後、7時前に出発する。準備運動も兼ねて、ポレポレと歩くも、直ぐに剣山荘に到着。サブザックに必要なものだけを移し、ザックを小屋にデポして、情報を仕入れて出発。この天気と先発組の様子から、大丈夫そうだ。いざ、剣へ！荷が軽い分、足取りも快調だ。一服剣を前に、早くも渋滞だ。30分しか歩いてないが、1本を取って、腹ごしらえをする。幾分、空いた頃を見計らって出発。岩場をどンドン進む。一気に前剣へ。剣本峰がどでかく、どっしりと姿を見せてくれる。雪の心配は皆無だ。小休止し、前へ進む。少しでもと思って、追い抜ける人は抜いていくが、大股で無理に子岩を登った時に、“イカン”足を攀ってしまった。しかも両足だ。息子が心配してくれているが、ここでは休憩もできない。ごまかしながらの歩行を続ける内に、1時間も歩くとカニのタテバエ直下の大渋滞の最後尾に到着。待つしかない。行動食を口に入れながら、周囲の人達共、談笑タイム。朝一番のアタックの方が良かったかな？とも、思うが仕方がない。攀った足は渋滞のお蔭か、痛みも引いて治ってしまった。1時間以上待って、やっと登り基点に到着。私の前に、ザイルで結わえられた婆さんが、モタモタ登っている。危なっかしくて見ていられない。(よくここまで来るな~、よく連れて来るよな~)と、心の中で思いながら、万に備え、距離をあける。やっこさ、登りきったのを見届けてから、登攀

開始。5分もかからず、タテバエを登り切り、最後の喘ぎを楽しんでいると頂上だ！息子とガッチリと握手、三角点にハイタッチ。記念写真を撮ってもらって、山頂の360度のパノラマを楽しむ。富士も彼方に見える。素晴らしい！名残り惜しいが、登ってきた人に頂きを譲る。ヨコバエもなんなく過ぎて、前剣で1本。剣山荘から、ザックを背負い剣御前小屋まで我慢比べ。小休止後、一気に雷鳥沢へ。ハードな一日を終え、焼酎で乾杯。二人とも気持ちよく酔って気持よ



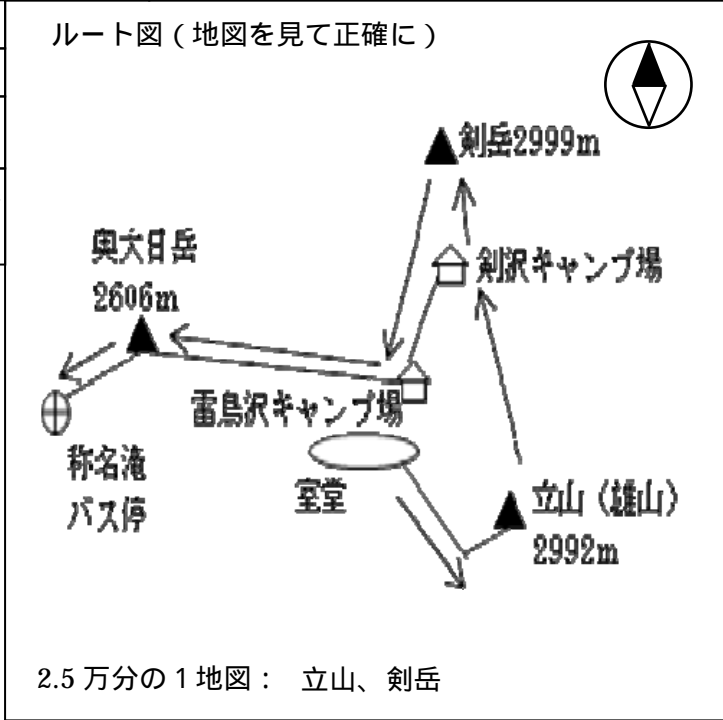
確認
(リーダー)
津田
11.10.5
作成
(報告者)
津田
11.10.5



9 月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small>		報告者	津田 廣一	参加 メンバー	CL:津田 廣一 津田 竜広
		報告日	10/12		
山域	北アルプス	山行日	11 年 09 月 25 日(日)		
山名	奥大日岳				

山行目的	山旅を楽しむ 山懐に入る	コースタイム(天候:天気図記号)
------	--------------	------------------

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者



9/25 快晴		
04:00 起床		
05:45 雷鳥沢(テン場)発		
06:10 新室堂乗越		
06:45 カガミ谷乗越付近 1 本(5分)		
07:55~8:25 奥大日岳 山頂		
09:35 大日小屋 1 本(15分)		
10:25 水場 1 本(10分)		
11:20 大日平山荘 1 本(15分)		
12:20 猿ガ馬場 1 本(10分)		
13:10 称名滝駐車場(下山)		
19:30 富山(息子アパート)発		
23:30 豊橋(自宅)着		

突然、雷鳥が!

立山を背に
遊歩道を散策

山行報告 目覚めて外を見ると、今日も星空だ!お湯を沸かして、簡単朝食(味噌汁とパサパサお握り)。早速にテント撤収、5:45 に出発。少し、汗ばんだ頃に新室堂乗越(尾根)に出る。今日も息子は快調、写真を撮りつつ、私の後を遅れる事無くついて来る。朝焼けの山肌を見ながら、山上の遊歩道を楽しむ。1 時間、歩いた所で 1 本。昨日、登った剣岳や立山がくっきりと見える。コースタイム以上のペースで歩いている。奥大日最高峰への分岐で、ザックを置いて、空身でピストン。7:40 奥大日最高点(2611m)へ。〇〇倶楽部の小さな山頂標識を手に写真を撮り、奥大日の山頂を目指す。間もなく奥大日山頂へ到着。ここでも 360 度のパノラマを楽しんで、大休止とした。頂上であった人によると、昨日の剣のタテバイで、お婆さんが、50cm位滑落し、下にいた別パーティの人が咄嗟に支えて事無きを得たとの事(偶然に目撃)。「自分の力量を考えて、山を選ぶ。連れて行く人も、その人の力量を考えて連れて行かないと…」と思った。昨日の事を思うと、何か?安易に山に来ている人が多過ぎる様な気がする。「私には、剣はとでも行けない。見る山だわ。」と奥ゆかしい山ガールもいたけれど…。奥大日を後にし、大日小屋へ。小屋の近くの山道で、雷鳥のつがいが 1mそこそこに。思わず、カメラに収めた。小屋の人に話すと、「道案内してくれたね!」。ここから、長〜い下りが始まるが、昼過ぎ頃には下山したいので、小屋を後にする。水場で 1 本を取り、一気に大日平山荘へ。ここで、山ガール&ボーイの団体さんと、しばし談笑。可愛い山ガールさんは、3 度目の大日でやっと晴れたので、感激だそうだ。一休みし、急な道を汗

をかきつつ下る。これでもか!と言っている様な下り一辺倒の登山道で、さすがの息子も、この下りは応えたそう。膝もがくがくになった頃(13 時過ぎ)、ようやく称名の滝駐車場へ。バス待ちの時間に、昼飯としてそばを食べる。バスへ乗り込んで、立山の駐車場へ無事到着。温泉♨で一汗流して、息子と夕食を共にして、豊橋へ車を走らせた。23:30に無事に自宅へ到着。充実の山行であった。息子よ、又、行こう!



確認
(リーダー)
津田
11.10.5
作成
(報告者)
津田
11.10.5

リーダー所見

